

陽光の園



令和2年2月に国内で発生した新型コロナウイルスは全国に蔓延し老人ホーム運営にも大きく影響することになった。介護のあらゆる場面で感染予防対策を徹底するとともに面会および外出制限等の行動制限をお願いせざるを得ない状況となった。そのような制約のあるなかでも季節感を大切に笑顔のある日常生活を送れるような支援に努めた。

コロナ禍に覆われた地域社会に対する福祉支援も社会福祉法人としてできる範囲で取り組んだ。

一方、看取りを含めた重度化対応のサービス向上および人材育成や生産性の向上などの従来の取り組みが後退しないように、目標達成の継続性の維持を心掛けた。

## サービス目標

### (1) 施設サービス

新型コロナウイルス感染症対策を行政や業界の情報に基づき、場面の変化に合わせて施設で工夫を凝らしながら実施した。そのうえで、ご入居者の日常生活にできるだけ支障の出ないようなサービス提供を心掛けた。また、多職種協働で入居者29名の看取りを実施した。看取りの振り返りを丁寧に行い、マニュアルやフローチャートの見直しをおこなった。

### (2) 在宅サービス

地域でのコロナ感染状況に配慮しつつ地域包括支援センター・居宅介護支援サービスともそれぞれ約200件の地域ニーズの居宅支援を実施した。通所介護・短期入所介護においては送迎時の予防対策を強化しつつおもてなしのサービス向上に努めた。箱根山荘をはじめ他事業所との連携強化に引き続き取り組んだ。

### (3) 危機管理とハード整備

新型コロナウイルス感染防止対策に追われた年度となったが、土砂災害や地震を想定した多様な訓練は継続的に行った。また、コロナ状況を考慮し、予定していた空調等の設備整備は施設内作業を伴うため延期し、外壁修繕を実施した。

## 目標達成にむけての重点課題

### (1) 業務力向上の取り組み

生産性を高められる業務提供体制になるように各種マニュアルや業務

手順書の見直しに継続して取り組んだ。情報伝達の合理化を目指す記録の電子化については独自のソフト開発に目処が付き、ハード面の整備も並行して行い試行段階となった。

## (2) 組織力強化と財務状況の健全化

入所・ショートステイ・デイサービス等の一体的運営および加算を伴うサービス向上を考えた多職種連携の推進を図る組織体については試行錯誤を繰り返しながらも充実に向け取り組んだ。

慰労金も含め行政によるコロナ対策助成金を活用しつつ、職員が少しでも安心して業務に取り組める職場環境の醸成に腐心した。

コロナによる利用控え等の影響を最小限に抑え、利用率を前年度並みの水準を維持した。同水準以上向上を基本に、新処遇改善加算や市の委託事業費増等の外的要因を組み合わせ、職員の処遇向上と財務バランスの向上に努めた。入所施設は27名の退去者が出たが、入居業務の迅速化や入院者を減らす取り組みによりの利用率が98.9%と目標を上回った。

## (3) 人材育成・確保の取り組みの継続

職員の多様な働き方に対応した法人のキャリアパスシステムの見直しは基本となる業務基準書が完成した。職種や職位に応じた具体的な基準となるよう全正規職員を対象とした研修の実施に着手した。

コロナ禍であったが新卒者やEPA職員の継続的受け入れはできた。しかしながら、一定数の退職者やコロナ対策強化のため補充職員が必要となり、派遣職員や紹介会社による中途採用者に頼らざるをえなかった。

## 部署別事業報告

### 介護課

#### (1) 入所介護 3 階

- ・ 食事・入浴プロジェクトを旗揚げし、現状の課題をリアルタイムで抽出した。人員配置や環境改善、新たなツールを導入するなどして対応した。  
日々の情報共有の中で必要時にケアカンファレンスを行い、時には嘱託医の助言をいただきながら認知症の高齢者の気持ちに寄り添うことができた。
- ・ 様々な記録や提出物を求める場面で PC 入力之机をを増やしデジタル機器に対して抵抗感が少なくなるように努めた。また、月 1 回のアセスメント PC 入力も定着した。
- ・ コロナウイルスの影響により休憩時間の場所の共有が難しかったが、日常の業務の中で職員同士の意見交換を活発に行い、チームワークを大切に働くことができていた。
- ・ 以前と比較して OJT での指導場面が多く見られ、上司から後輩に知識や技術の伝達が行われるようになった。少しずつではあるがキャリアパスを意識した指導育成につながってきている。

#### (2) 入所介護 2 階

- ・ 食事に関しては摂取レベルに合わせたスケールを作成した。重度化に合わせた介助量を基準化することで、入居者の食席配置および必要な場所に必要な職員数を配置するための基準が明確になった。感染症対策の食席配置検討にも有効な取り組みとなった。入浴については次年度への課題となった。
- ・ 記録の電子化への取り組みは部署内で課題となっているツールを点検し、今後に合わせて準備を行った。部署を跨ぐフォーマットは作成したが、電子化への具体的な移行は令和 3 年度への持越しとなった。
- ・ リフレッシュ休暇の導入を目指したが、職員確保の難しさから導入は見送りとなったものの、職員の休暇の偏りは多少緩和された。
- ・ キャリアパスにおいて次期サブマネジメント候補として EPA 候補生も入れて育成を実施した。職員の入れ替えがあったもののキャリアパス意識向上の取り組みは継続的に実施できた。

#### (3) デイサービス

- ・ 新型コロナウイルス感染症の蔓延によりソーシャルディスタンス保持のために定員 25 名対応や利用者の感染恐れによる利用控え等の影響もあったが年間を通して前年充足率を超えることが

できた。

- ・検温チェックを初めとする職員のスタンダードプリコーションの徹底により年間を通じて感染症の持ち込みを防ぐことが出来た。
- ・LIFE・CHASEを見据えたバーセルインデックスの導入を実施。様式の作成・実施・各利用者及びCMへの配布まで実践に移すことができた。(7月ベース作成・9月全利用者評価・12月より利用者毎誕生日月に毎月配布実施)
- ・送迎チームをはじめケアマネ・事務からの運転及び付き添い業務の応援体制によりデイサービスの送迎に支障をきたすことなく利用者の受け入れを継続することができた。毎月新規利用者3~4名ずつと利用者が入れ替わりの激しい中、柔軟な受け入れ体制を保つことが出来た。
- ・リーダー職員の退職や安定運営に向けての非常勤職員の確保が十分出来ず、キャリアパスと連動した人材育成環境の醸成は次年度への課題となった。

#### (4) 相談、施設ケアマネ

- ・入居、DS、SSの相談室として個々に多職種協働を意識し、1年を通じて大きなトラブルもなく業務を遂行した。家族対応(苦情含)もトラブルになる前の先手の対応を心掛けた。相談室内のチームワークを大切にした。
- ・看取りが多く入退去が頻繁であったが高水準の利用率を維持できた。SSはコロナ感染予防のための利用制限等も行ったが、県の緊急受入れ確保事業も活用するなど利用率の維持に努めた。DSは営業努力により問い合わせも多く、充足率回復に向かうことが出来た。
- ・DS、SSで使用しているアセスメント用紙の見直しは着手で止まっている。しかし、相談員日誌等での情報共有は推進でき、相談員間の連携も図れ、DS⇒SS⇒入居につながる好事例もできた。
- ・医療依存度の高い方の入居受け入れは例年並みであった。SSは医務室の直接対応でロングでの受け入れ事例が増え、透析の方の一時受け入れなど多職種に協力を仰ぎ間口を広げられるよう努めた。DSはコロナ蔓延のために書面での情報収集となった。
- ・コロナの影響によりお試し利用の取り組みは限界があったが、ふれあい通信等の情報発信により地域ニーズの掘り起こしを図った。同時に箱根山荘や病院との連携強化に努めた。

#### (5) 機能訓練室

- ・介護課を支える立場での支援を意識した業務になるように努めた。

- ・特養入居者の重度化が進み、個別性を出す計画・訓練の難しさは継続課題となっている。DSは屋外・屋上・階段等を活用し家庭環境や本人のADLに合った訓練を行った。
- ・リハビリ拒否や関わり困難な入居者は一定数あり、加算につながるケースは引き続きある。DSはアセスメントに取り組み新規利用者だけでなく既存利用者の掘り起こしに取り組んだ。
- ・DSは集団体操の充実に努めるとともにバーセルインデックスの活用で家族やCMに実施評価表を提供して見える化を図った。

#### (6) 医務室

- ・コロナ対策により看取りケアが例年のようには行なえない点があった。また、逝去件数が多く同時に多数の看取りを行うことになり、多職種で振り返りながらの指針やマニュアルの修正は年度末までずれ込んだが次年度に繋げることが出来た。
- ・利用者の健康管理状況を電子化し、情報共有を始めるための準備はできた。令和3年度からはアクセスを使用し医務室内及び多職種間で実用化していくメドが立った。
- ・園長および感染症委員と医務室で協力してマニュアルの改訂を行い、わかりやすいものにすることが出来た。新型コロナウイルス対策については全部署に動画研修も加えて実施するなど、職員の感染症に対する意識向上に努めた。
- ・急な退職者が出て派遣職員への教育や業務の導きが主となり、医務室全体の業務分担見直しまで至らなかった。

#### (7) ケアマネ室

- ・予防(40件程度)も含めて195件前後のプラン作成管理している。200件を超える月もあり目標を毎月超える実績を残せた。要介護状態からの新規依頼が多い。
- ・医療連携が強化されるなか、医師・薬剤師・歯科医師とご利用者やご家族を取り囲み、情報を共有し対応策を一緒に考えるということが定着してきた。また、サービスにつながらないケースに対しては包括支援センターへ報告し見守る体制を作り、虐待ケースに対しても包括・行政と連携を取り改善策を立て対応している。
- ・外部開催の研修が中止になりウェブでの研修となったが、操作の不慣れやEPA等他部署と重なるなどパソコン環境にも限界があった。ケアプラン点検や多職種研修など行政企画研修には全員が参加した。そして、部署会議を通じて研修に参加した内容を報告し情報共有に努めた。
- ・独居や障害のあるご利用者がどの場所に住んでいるかハザードマップで確認した。また、台風の時など安否の確認を行い避難する

施設を探し対応したケースもあった。

## 業務管理課

### (8) 事務チーム

- ・未収金の回収は滞納者に対する情報を共有し連携を図り改善に努め、早期対応で長期滞納者の発生を無くした。
- ・共有ファイルの活用により面会や通院の情報共有を図った。  
記録の電子化は独自ソフトの開発に向け多職種調整を行うとともに補助金を活用して Wi-Fi 設備の整備、タブレット新規購入、パソコンの増設等ハード面の整備も推進した。
- ・コロナの影響がありキャリアパスは業務基準書の策定までとなった。評価基準に向けての勉強会等は次年度継続となった。

### (9) 栄養調理チーム

- ・ソフト食の提供は軌道に乗り、新たに量は少なく栄養価の摂れるお粥の開発に取り組んだ。DS は近隣の施設と比較し楽しめる食事になることに取り組んだ。栄養業務も新規加算の研究を行った。
- ・衛生面では食中毒マニュアルの大幅な見直しとコロナ対策で掃除の徹底を行った。
- ・ゴム手袋の価格高騰・業者との交渉が難しさ・DS に特別食提供などコスト増の要因があったが、在庫管理の徹底とコロナによる食材購入工夫によりコスト削減を実現できた。
- ・安定運営に向けての非常勤職員の確保が十分出来ず、キャリアパスと連動した人材育成環境の醸成は次年度への課題となった。

### (10) 地域包括支援センター

- ・地域住民の自主活動に向けた地域サロン活動はコロナ感染予防のため活動が停止し、新たな住民活動の発足に至らなかった。コロナ禍での地域のつながり維持を模索した。
- ・コロナ禍により行政主催の医療・介護連携研修も中止となり、連携を深めることはできず、ネットを活用した交流事業の着手までとなった。
- ・圏域ケア会議の開催も見合わせとなり、ネットによる事業者間の意見交換にとどまり、地域に対しての活用は今後の検討課題となった。
- ・法人内他の事業所との連携は居宅介護支援事業所をはじめすべての事業と関連しているためケースを通じて連携は取れた。法人のキャリアパスは策定中であり評価に関しては次年度への継続課題となった。



箱根山莊



## 令和2年度 軽費老人ホーム箱根山荘 事業報告

近年、建物や設備の老朽化で軽費老人ホームをとりまく環境はめまぐるしく変化している。この中で高齢化と介護度上昇で入居者全体の自立度も低下し、入居者の若年層と熟年層の2極化、男女比の均衡化が進んで、従来の対応に変更を加えなければならない。加えて、令和2年度は新型コロナウイルス蔓延とそれによる緊急事態宣言によって山荘の従来の生活様式を変えていかざるを得ない状況となった。

自粛期間の入居者のフラストレーションは高まり、山荘内がギスギスし始めるなどアンダーコントロールにも注意を払わなければならなくなった。その中で入居者の感染予防とADLの低下予防と生活支援サービスを変容させていくなど、与えられた課題に取り組んできた。

### <年度内の山荘の状況> (表1参照)

年間9名の入居があり13名の退出によって、年度末の入居者数は62名となった。年齢の若い男性の新入居によって、平均年齢は83.1才(男性79.5/女性85.6)と前年と比べると1才若返っている。

#### (1) 入居者の状況について、昨年と比較すると

- ① 85歳以上が一昨年度34名であったが30名と減少している。入居4年未満が33名となって、入居の浅い年齢と古い入居者との間の指向性のギャップも散見されるようになっている。
- ② シルバーカー利用は14名で、杖を利用する方を含めると移動能力に問題を抱える方が増えている。
- ③ 電話等での空き状況の問合せは例年並みであったが、コロナの発生で見学を控えるなどの結果、手続きが進まず入居には至らなかった例が見られる。
- ④ 自立の方が20名、要支援が16名、要介護1で21名、要介護2以上が5名と入居者の自立度は低下している。
- ⑤ 成年後見制度の利用(20人)が増え、一方で保証人も高齢となり保証人のサポート体制がむつかしくなっている。また、コロナ過で家族会や各種行事の開催を控えたことにより家族との交流機会が低下している。ズームなどアプリでの面会を可能とするタブレットを2台導入したが、利用者は今のところいない。
- ⑥ 退居した13名の中では介護度の重症化によるものが8名、自宅への帰宅願望によるもの2名、死亡による退居が2名であった。
- ⑦ 介護職員の退職で人材派遣会社等を利用したものの定着には至らず、陽光の園退職予定者からの配置換えで補充を行った。

### <事業報告>

#### I. 入居者のQOLの維持向上に向けた生活援助について

##### (1) 介護予防に向けた事業展開に関して

- ① 入居者の高齢化、虚弱化とで活動性の低下がみられた。
  - ・ 要介護認定者 26名 要支援者 16名
  - ・ 入浴介助を必要とする者の増 17名
  - ・ デイサービス利用者 16名
  - ・ シルバーカー利用者 14名
- ② えれんな生きがい活動の取り組み (表2参照)

楽しみながら身体機能の維持・向上を目指したり、居室に閉じこもらないように、入居者に対してクラブ活動(エレンな生きがい活動)等の参加の呼びかけを行っているが、カラオケクラブ、コーラス会や器楽の会はコロナ禍で実施できないものもあった。花園会などの活動では、入居者の身体状況の変化も加わって野外活動が困難となり椅子に座って作業するものに活動内容を変更して実施した。

また、三密を避けるため、脳トレ、わかばの会、あしたばの会、にこにこ体操では2班に分けて実施したのものもある。

### ③ 年中行事の開催

表3に示すように、季節ごとの行事は集会形式では行えず、内容を工夫しながら分散化して行ったものもある。

### ④ 地域貢献、社会参加等

タオル詰め等の依頼もなくなって社会参加の機会も少なくなった。また、地域貢献活動は山荘周辺の清掃や植木の手入れを行うなど、活動は限定的なものとなった。

### ⑤ 食生活の充実

本年度予算内の食事提供(給食費1人1日873円)と適正な食事摂取基準(1,600キロカロリー他)を確保し、山荘喫茶ティーサロン「鈴蘭」を月一度定期的に開催し、その他適温給食に努めた。アンケートや聞き取り調査や嗜好調査や残菜調査を行い、入居者個々の食形態に合わせた給食を提供し、移動能力に応じて1班、2班と時間差を設けた給食体制をとった。年度の途中からアクリル板をテーブルにセットして三密を避けるコロナ対策を実施した。

- ・リクエスト食・・・誕生日の好きな食べ物を、誕生日または誕生日会に提供した
- ・誕生日会・・・従来一同で誕生日を祝ったが、密を避けるために2班に分けて企画し、毎月第4金曜日に四季を通した素材の夕食で祝った。

## (2) 自立生活支援

入居者の誕生日に行っていた外出支援はコロナ禍で実施できなくなった。また長寿園の小田原までのバスの利用ができなくなったことや、これまで山荘内で訪問販売を行っていた業者の都合がつかないことから、職員の手配による買い物送迎と買物代行を月2回の頻度で行って入居者の便宜を図った。

- ① 買い物送迎、誕生日会、敬老祝賀会、ファミリー会、誕生日外出支援などを開催した。
- ② 入居者との話し合い合同で開けないため、各階ごとの懇話会を通して入居者の意見を運営及び事業に反映した
- ③ 入居された後、介護認定申請や重度とされた方の転入先、受け入れ先の確保も行った。
- ④ 病院受診等外出への付添い援助体制の強化を図った。
- ⑤ 金銭管理は原則本人、保証人の取扱いであるが、依頼により少額の小口現金(3名)と、印鑑(3名)、通帳(1名)等の預かりをした。援助を行う場合は、出納簿、通帳、に記録して、定期(4月、10月)保証人の確認、照合を受けた。
- ⑥ 厚生労働省のガイドラインにより、個人情報保護、高齢者虐待防止法等に留意し、人権保護アンケートを実施した。入居者との接遇に関して、研修会を行った。

## (3) 健康維持・保健衛生活動について

伝統行事、ファミリー会などの開催のほかに、感染症対策委員会を中心とした感染症予防(ノロウイルス、インフルエンザ等)対策、下記の熱中症対策としてスポーツ飲料と乳酸飲料の配布を実施し、入

居者の健康維持・管理に努めた。結果、幸いに冬季のインフルエンザやノロウイルスの発病はなかったが、COVID-19 ではコロナ会議を立ち上げて、パーティションの購入、食事の座席間隔の調整や、入居者への手作りマスクやハンカチマスクの作成指導や県や市からの援助物資(紙マスク、アルコール、グローブ)の管理など、山荘内消毒作業の回数を増やすなど対応した。

① 小田原市の基本健康診査で血液検査、心電図など実施、また、血圧、体重測定は月 1 回実施しながら入居者の健康管理を推進した。耳鼻科・歯科受診や精神保健相談もした(採血年 2 回)

## ② 感染症予防の強化

- ・委員会の会議は毎月行って、職員向け・入居者向けの講話を年 2 回実施した。
- ・結核予防はレントゲン検診で、インフルエンザはワクチン接種で予防した。
- ・コロナウイルス、感染性胃腸炎(ノロウイルス)等の発生を防止するため換気に努め、外出時は特に、マスクの交換、手洗い、うがい、手指消毒を励行した。また、各階共有部分の手摺り・ドア等毎日 2 回、消毒するため次亜塩素酸液等を確保した。
- ・入居者の毎朝食時の検温と体調確認チェック、職員の出勤時検温、来荘者の健康チェックを行って感染症の早期発見に努めた。
- ・各居室の冷蔵庫のダブルチェックを行って期限切れ食品の処分を行って食中毒防止に努めた。
- ・皮膚科の受診を進めて白癬菌予防を推進し入居者の理解を深めた。
- ・感染症予防と発症時対応を視覚教材を使って研修した。
- ・各階・医務室・栄養士室へ加湿機を設置し、温度 18~26 度、湿度 40~60%の感染しにくい環境に保った
- ・コロナワクチンの接種に関して保証人・家族に周知し承諾書を集めた。
- ・年度末に 3 回、県の指導で職員の PCR 検査を行った。

## ③ 熱中症の予防

水分の補給が控えめのため、朝のラジオ体操、棒体操終了後、ヨーグルト(7/3~8/31)、午後に麦茶かスポーツドリンク(7/3~9/22)を配布し予防した。

④ 朝のラジオ体操・棒体操・にこにこ体操、散歩等の励行により基本的な健康の充実を推進した

⑤ 嘱託医による診療(毎月第 1・3 木曜日)を実施した。

⑥ 協力医療機関(小澤病院・ライオン歯科)等との医療連携を図った。入院時には Ns の病院廻りを励行した。

⑦ 布団乾燥、害虫駆除、清掃援助を実施し環境美化を推進した。

⑧ 特に年度後半は感染症委員会の活動を活発に行った。

## (4) 防災の取り組みについて

予想される地震・大雨等の災害について、実践的な対応訓練を実施し、防災倉庫を定期点検し対策用品(主に食糧品)の拡充を図った。

- ・自家発電機を含む消防設備法定点検を年 2 回行った。
- ・自主点検の推進。点検表の作成
- ・防災訓練として避難訓練(02.10.27)、消火訓練(02.8.24)、夜間避難訓練(02.12.22)、地震対応訓練(02.11.12)、土砂災害避難訓練(02.9.22)
- ・5 日分以上の非常食備蓄(入居者 66+職員 18)を行ってランニングストック体制を維持している。

- ・『土砂災害等の避難確保計画』の確認と実践
- ・『箱根山荘 BCP』の整備行った。
- ・財団法人、社会福祉法人との防災に関する相互応援協定の確認

## II. 運営管理について

表 4 に示す諸会議及び各種委員会をもとに運営を推進した。

県の監査指導を受けて運営調整会議でまとめて開催していた「事故防止委員会」を独立した委員会とし別途開催することとし、同じく苦情委員会に人権にかかわる問題として併設していた「虐待防止および身体拘束廃止委員会」「身体拘束適正化委員会」も指針と会則を整えて独立した委員会として委員会活動を継続して実施している。

### (1) 諸会議の開催について

- ① 職員会議・・・業務運営の意見集約や調整等のため毎月 1 回第 2 火曜日、全職員で開催した。
- ② 運営調整会議・・・職種間の調整、施設業務全般にかかわる重要事項を検討した。
- ③ ケース会議・・・個別処遇の検討、入退居の判定・入退院に関して協議した。
- ④ ヘルパー会議・・・個別生活援助の検討・業務調整のためを行った。
- ⑤ 食サービス（献立）会議・・・食事に関して職種間調整を行った。
- ⑥ 苦情解決委員会・・・目安箱（ご意見箱）を設置、随時入居者からの声を聞いた。

入居者等からの苦情を多角的な観点からの検討し施設サービスの改善のため人権保護・身体拘束の委員会をここに位置付けている。

- ⑦ 事故防止委員会・・・入居者の安全及びリスク管理のため、事故事例の分析し防止対策を検討した。年間 3 件の事故、115 件のヒヤリ・ハット、14 件の服薬ヒヤリ・ハットがあり、個別に原因調査を行った。その他、手すり・バギーのチェックを年 4 回行って事故発生を未然に予防しようとした。
- ⑧ 広報委員会・・・広報誌"春風"の発行、財務諸表の公開等行った。入居者の余暇活動として、頭の体操（クイズ等）を実施した。
- ⑨ 感染症委員会・・・入居者及び職員のコロナウイルス、ノロウイルスやインフルエンザの予防に努めた。
- ⑩ 衛生委員会・・・入居者及び職員の健康・衛生の向上を目的に濾過器による循環風呂の性能向上による水質浄化及び週 1 回の完全換水・自主点検などの推進をした。  
また、入居者の健康への意識の向上（月 1 回）のためビデオ上映会・健康メモの作成を行った。その他、網戸張替え、入居者と清掃活動（月 1 回）、職員の検便、マッサージ器のカバー交換、救急箱の補充、P トイレの点検、裏山の草刈清掃等も実施した。
- ⑪ 防災委員会・・・避難訓練、消火訓練、夜間避難訓練、自家発電機点検、救急訓練、自動体外式除細動器（AED）の設置、E V 閉じ込め故障救出訓練講習、非常食備蓄を行った。
- ⑫ 虐待防止および身体拘束廃止委員会・・・偶数月に委員会を行った。虐待事例は認められなかった。
- ⑬ 身体拘束適正化委員会・・・奇数月に委員会を行った。身体拘束を行った事例はなかった。
- ⑭ コロナ会議・・・施設長、事務主任、介護・相談主任、看護師の 4 名でコロナ過の課題を検討し、対応した。

### (2) 職員研修体制の確立

コロナ過で人数を集めての研修を避けるため、You Tube より視覚教材を選定してタブレットを用いた個別研修形式の研修を企画して、職員の資質の向上のための研修を行った。

(3) 地域社会との交流

従来「介護の日記念イベント」「バザー」「盆踊り」等を行っていたが、コロナ過で実施していない。

(4) 各種設備・機械の点検・整備を実施した

箱根山荘は施工後半世紀近くを経過し、設備・機械類の老朽化が進んでいる。入居者が快適に過ごしていただくため、適時整備・点検を実施しているが突如の故障が多発している。

- ① 館内の水道管の破損で、玄関先で漏水を起こし、工事を行った。
- ② 高濃度 PCB 装置の破棄は終了したが、低濃度の機種 2 台の保管を継続している。。
- ③ トイレつまり等で、業者への依頼が増加している。
- ④ 防災機器の取り換えやボイラーの部品の交換を行った。
- ⑤ 給茶器と食洗器の機器の交換を行った。
- ⑥ 食洗器の破損で修理を行った。。

(5) その他

- ① 可能な限り入居希望者に随時見学を実施した。
- ② 例年通り年二回広報誌を発行した。近隣の行政・包括等関係機関に入居状況を連絡した。
- ③ 入退居及び PR 方法等検討のため戦略会議を開催した。

以上

表1.入居者の状況 (R3.3.31)

①入居者の性別、年齢別内訳							
	70未満	70～74	75～79	80～84	85～89	90以上	計
男性	2	6	3	8	4	3	26
女性	0	1	5	7	15	8	36
計	2	7	8	15	19	11	62
平均年齢83.1歳（男性79.5歳 女性85.6歳）最高齢者96歳（女性2）							
②入居者の在所期間別内訳							
1年未満	1年以上	4年以上	7年以上	10年以上	計		
	4年未満	7年未満	10年未満				
10	23	11	9	9	62		
③入居者の入所前の住所地別内訳							
所在	入居者数	所在	入居者数	所在	入居者数	所在	入居者数
横浜市	5	秦野市	1	山北町	2	湯河原町	5
平塚市	2	南足柄市	3	箱根町	7	県外	3
小田原市	27	開成町	1	真鶴町	6	合計	62
④入居者の要介護度							
	入所者数						
自立	20						
要支援1	7						
要支援2	9						
要介護1	21						
要介護2	4						
要介護4	1						
計	62						
⑤連帯保証人の状況							
続柄	兄弟・姉妹	子ども	甥・姪	知人・友人	後見人 保佐人	計	
男	4	11	1	0	9	25	元妻1
女	2	17	3	1	11	34	従妹1
計	6	28	4	1	20	59	孫1
⑥退居者の状況 (13名)							
退居の理由				退居後の状況			
介護度重症化		8		特別養護老人ホーム		2	
帰宅願望		2		有料老人ホーム		2	
死亡		3		老健施設		2	
行方不明		0		自宅		2	
				長期入院		2	
				死亡		3	



表 2.2020 年度 クラブ活動、えれんな生きがい活動 実施状況

活動内容	指導or 担当者	開催回数	参加人数 平均
折り紙クラブ	栗原 操	10	4.9
太極拳	永井康江	10	5.8
コーラス会	小澤 一	0	0.0
器楽の会	川島由美	2	6.0
カラオケクラブ	ヘルパー	0	0.0
大正琴	相談員	10	6.0
あしたばの会	ヘルパー	42	13.6
わかばの会	看護師 他	42	15.1
山荘映画	ヘルパー	10	11.8
朝の体操	職員	毎朝	---
にこにこ体操	看護師 他	114	16.8
散歩クラブ	看護師 他	24	13.9
脳トレ	職員	46	10.1
花園会	職員		
健康ビデオ	ヘルパー	10	10.5
あゆみの会	職員	13	4.9
環境美化清掃	職員	9	5.6
誕生者外出支援	職員	---	---
買物送迎	職員	16	25.0
買物代行	職員	7	43.0

表 3. 2020 年度行事等実施状況

月	行 事	開催日時	主任	副主任	参加者数
4月	ファミリー会・長寿大学発表会	中止	樋口	遠藤 北原	0
5月	五月人形・鯉のぼり飾り	4/22-5/6	柏木	大熊 中尾	...
6月	七夕の飾り付け	6/25-7/8	柏木	椎野 海津	
7月	布団乾燥	7月27日	北原・柏木・大熊・小枝 他		48
8月	盆踊り→ミニ夏祭りとして開催	8月6日	遠藤	中尾 小川	
9月	敬老式典	式典中止 9/19の昼に表彰など	北原	柏木 遠藤	
	敬老作品展+シルバー作品展	9/14-29	樋口	柏木 清水	
10月	運動会	中止	遠藤	大熊 清水	
	講話 (フレイル)	各階懇話会で	椎野	遠藤 中尾	53
12月	クリスマス会 (飾りつけとプレゼント)		大熊	椎野 北原	
	年賀状 作成		中尾	柏木 清水	
	門松作り		海津	清水 遠藤	
	正月飾り付け		椎野	柏木 清水	
1月	箱根駅伝 or 宮参り	中止	北原	大熊 小川	
	新春娯楽会	中止			
	どんど焼き	中止	中尾	北原 西野	
2月	節分	中止	樋口	海津 椎野	
	ひな祭りの飾り付け		大熊	遠藤 北原	
3月	カラオケ発表会		小川	樋口 椎野	

4. 委員会活動実施状況

25  
枚

委員会名	委員長 議長	会議 日時	委員
運営調整会議	遠藤	毎月第 2,4火曜 日	清水 中尾 小池 柏木 樋口 海津 小川 北原
苦情委員会	柏木	毎月1回	清水 海津
虐待防止及び身体拘束廃止委員会	中尾	偶数月	遠藤 清水
身体拘束等適正化委員会	柏木	奇数月	樋口 清水
事故防止委員会	海津	毎月1回	柏木 清水
感染症委員会	樋口	毎月1回	北原 小川 二瓶
食サービス委員会	小池	毎月1回	運営委員
防災委員会	遠藤	毎月1回	樋口 海津 西野
広報委員会	中尾	随時	遠藤 大熊
衛生(環境美化)委員会	北原	毎月1回	椎野 小川 木下